



▲「博物館都市構想」策定に向けた市民懇談会

津山市が目指す姿とその実現のために

市長 5年後、10年後を見据えて、今後津山市が目指す姿や、その実現のために何をしていくべきだと思いますか。

デジタルが多様性を支える

小林 デジタル社会と聞いた時「取り残されるんじゃないか」「何だか無機質だ」と感じる人がいると思います。まず、デジタルになるとこんな良いことがある、こんなことができる、と伝えることが、とても重要です。デジタル社会になっても、人と人の対話など、アナログの部分が無くなるわけではありません。ただ、アナログで伝えることができる情報量には限界がある



小林充佳さん

津山市に

期待すること

市長 市では現在、健康寿命を延ばすサポート、公共交通サービスなど、デジタル技術を活用して進めたいものを、実行計画に位置付けています。

また、市外から校外学習や修学旅行などの教育研修旅行を誘致するため、津山の魅力の発信にデジタル技術を役立てたいと考えています。

津山のまち全体を屋根のない博物館と捉え、まちづくりを進

ります。例えば、レコードのLP盤では、入る曲は10曲くらいです。これがCDのようにデジタルになると、その何千倍もの情報を伝えたり、加工したりできる。

一人ひとりの価値観が異なってきた今、多様性を重視して、デジタル技術をうまく活用して、みんなが幸せになれる津山を実現してほしいです。

誰もが嬉しくなる取り組みを

間瀬 デジタル化が進むかどうかは、取り組む人や関わる人が、いかに自分のこととして考えられるかに掛かっていると思います。一部の人だけ頑張っても、なかなか普及しません。住民も職員も、みんなが嬉しくなる取り組みこそ、普及していくのではないのでしょうか。

例えば、「書かない窓口」。住民の皆さんは窓口で書類を書く煩わしさから解放され、職員も今まで手で行っていた作業をシステムが自動で行うことで、業務が効率化します。その分、人にしかできない仕事をより手厚くできます。

デジタル技術の活用で余力を

める「博物館都市構想」の策定に向けた市民懇談会でも、デジタル技術の活用について意見をいただいています。

専門家や住民の皆さんと一緒に、良いものを作り上げていきたいです。

交流・関係人口を増やす

小林 津山に住む人が減っている中、津山を訪れる人、津山と関わりを持つ人をいかに増やすかが大切です。例えば、博物館構想をメタバースと組み合わせ、全国の人に参加してもらえたら、津山に関わる人が増え、発信力が高まると思います。

また、農産物や加工品などの生産者と消費者を繋ぐ部分でも、デジタル技術が役立ちます。生産者と消費者をオンラインで繋ぎ、商品への思いやニーズを伝え合うことでファンが増えていくと思います。

どのように交流人口、関係人口を増やすか、そして津山の活性化に繋げるかという視点で、取り組みを進めてほしいです。

気軽にデジタルに触れる機会を

間瀬 DXを推進するためには、



生み出し、楽しみながら取り組むこと。デジタル化が進むと、みんなが嬉しくなることを実感しながら進めるのがコツだと思います。

デジタルへの意識を変える

松田 デジタル化が進み、大量の情報が距離に関係なく瞬時に伝わるのが当たり前になっている今こそ、津山の時代だと感じます。津山で育った人や歴史の中で育まれた文化など、価値のある情報をどう世界に向けて発信できるかがポイントになっていきます。

そのために、デジタルに対する意識を変えることが必要です。

デジタル人材育成が欠かせません。民間でも、全社員がデジタルの知識を持ち、活用できる力をつける企業が増えていきます。住民の皆さんにはまず、気軽にデジタルに触れ、試してみたいです。

皆さんから市の取り組みを応援してもらえるようになれば、まち全体が盛り上がりそうです。

津山の教育活動を世界へ

松田 教育研修旅行で、いろいろな人が津山を核に教育を進めるといふ取り組みは、とても面白いと思います。そういう津山の教育の活動を、世界に開いてほしいです。

世界中の子どもたちが、まち全体を教育のフィールドとして、地域の人たちと交流しながら学習を深めていく。津山はそういう素材をたくさん提供できる気がします。

交流の中で津山が持つものに多様性があり、新しい価値が生まれていくと思います。

市長 今後、住民の皆さんと一緒に「便利で快適なまち」を目指していきます。

デジタル技術を活用したまちづくりの道しるべ 「津山市スマートシティ構想」策定が進行中

津山市スマートシティの
取り組み
はこちら→



「スマートシティ」とは

新しい技術を使って、まちのさまざまな悩みを解決し、皆さんの生活をもっと便利で快適にするための取り組みです。

皆さんの「あったらいいな」をカタチに

スマートシティ構想の策定に向け、パブリックコメントなどで皆さんの意見を募集する予定です。いつまでも「住み続けたい」と感じられる津山を、みんなで作っていきましょう。



松田恵示さん

気後れせず、まず使ってみて、デジタルって面白いな、どんな風に使おうかなという、使う人の主体性を育てていく。ここに、教育も大きな役割を担う必要があります。

今、世界中の教育の目標として「ウェルビーイング」という言葉がよく使われます。直訳すると「よりよく生きる」という意味です。ビーイングには、今の自分がそのままだにあることが素晴らしいという意味が含まれています。

多様性を認め合うことで、いろいろな方向に幸せが広がっていく。まず、皆さんがこうしたという声を上げることがスタートになり、デジタルが一つの道具、環境として、新しい価値を生み出す流れに繋がれば良いと思います。